

令和 6 年能登半島地震に対する支援活動についての報告(4/1 更新)

3. 兵庫 JRAT の災害リハビリ支援チームの活動状況などを支援活動に関する情報

●4/1 報告

発災から3か月が経ちました。避難者は地域の自宅や仮設住宅で新しい生活を始める人も増えてはいますが、奥能登では断水地域がまだあるなど落ち着いているとはいいにくい状況です。

今回の震災の人的被害は災害関連死 15 人を含め死者数は 244 人でした。避難所の避難者数は最大約 3.4 万人から 8019 人へと減少していますが、県内外の親類宅などには 7757 人が避難しており、合わせると 3 か月時点の避難者数は熊本地震の約 3 倍となります。

兵庫 JRAT の最終のチーム G も珠洲市での任務を終了し 3/30 に無事に帰還しました。これまでに JRAT からは 949 チーム 3168 人が現地で支援活動を展開し、石川本部と東京本部のロジ要員 2419 人がバックアップしました。兵庫 JRAT からは 7 チーム 31 人とロジ要員 3 人が現地で支援にあたりました。

今後 JRAT は 4/12 をもって県外からの支援活動を停止し、4/30 には JMAT 撤退に合わせて撤退し、支援サービスは石川県内の CBR 組織に移行する予定となっています。

引き続き皆様には能登半島の復興に注目し、支援をお願い申し上げます。

●3/18 報告

チーム F(堀家章宏 ST、岩田祐美 OT、深津陽子 PT、濱崎和樹 PT)が 3/10 に被災地に入り、石川総合スポーツセンターでの支援活動に従事して 14 日に無事帰着し、昨夜その報告会が開催されました。スポーツセンターには 3/15 時点で、石川県が管轄する 1 次避難所的なメインアリーナに 107 人、阪急交通社が管轄する 1.5 次避難所のサブアリーナに 68 人が避難しており、活動性や寝たきり度合いで避難所が分けられていますが、食事内容をはじめ、福祉用具の配置状況にも大きな差があり、機能訓練の適応やセラピストとしてやりたい事とやるべき事との乖離も少なくなく、対応に苦慮する場面が多いとのことでした。また、今月からメインアリーナを縮小する方向に向かっていますが、中には介護認定を受けていない方が多く、申請しても認定までに 1 か月程度の時間がかかり、介護保険サービス提供施設への退所ができずに、認定を待っている間に活動性の低下を引き起こすケースが多いとの報告がありました。これは旅館ホテルなどの二次避難所に避難している方も同様と考え、悩ましいところです。また、奥能登の珠洲市や輪島市でも避難所の統廃合が進んでおり、帰宅や施設入所が難しい避難者は、仮設住宅当選を待ちながら指示されるままに避難所を転々と移動させられる日々が続くこととなります。

この地域へは 3/26 から「兵庫 JRAT チーム G」が現地入りし、3/30 まで災

害リハビリ支援活動を展開する予定となっています。

被災地では東京の JRAT 中央対策本部の主な機能を石川 JRAT へ統合し、4 月からの災害リハビリ支援を石川県の JRAT を中心とした地域リハビリテーション（C B R）へ引き継ぐための準備を進めており、全国からの支援は計画的に減少されています。

一方、国政レベルでは 3/7 に参議院予算委員会において田中まさし参議院議員が質疑を行い、冒頭から「元日に発生しました能登半島地震お亡くなりになられた皆様方にご冥福をお祈りしますとともに被災された全ての方々にお見舞いを申し上げたいと思っております。今回の能登半島の被災地では保健医療チームが支援活動を継続しておられますが、松村大臣からメッセージをいただけないでしょうか？」

松村祥史内閣府特命担当大臣は、「被災地支援における自衛隊、ボランティア、専門職の活動に感謝を表し、今後も支援活動の環境整備を進める」と回答しました。

次に田中議員は「この度の半島地震に限らず、これまでの災害では医療のみならず介護福祉保健に関わる他種の専門職が支援にあたってられています。一方で、災害救助法の第 7 条の部分に介護福祉保健をしっかりと加えていただきたいと考えますが、大臣のお考えをお聞きします。」

松村大臣からは「災害時の医療・介護・福祉サービスの連携強化を目指し、専門職の法的根拠を明確化し、支援体制の充実を図ることを検討中である」との回答を得ました。

これは 6 月から議論がはじまる「災害救助法」の法律変更の議論にリハ職種が含まれる可能性を含んでおり大いに期待しています。

参考：(従事命令)災害救助法第七条 都道府県知事等は、救助を行うため、特に必要があると認めるときは、医療、土木建築工事又は輸送関係者を、第十四条の規定に基づく内閣総理大臣の指示を実施するため、必要があると認めるときは、医療又は土木建築工事関係者を、救助に関する業務に従事させることができる。

(以下、省略)

●3/15 報告

現在、被災地では「兵庫 JRAT チーム F」が 1.5 次避難所である石川総合スポーツセンターの支援活動を無事に終えて昨日帰着しました。次は「兵庫 JRAT チーム G」が 3/26 に現地入りし、3/27～30 まで奥能登の珠洲市で災害リハビリ支援活動を展開する予定となっています。

石川県が 3/5 に発表した情報では、市町の 1 次避難所は 200 箇所、5083 人が避難しています。さらに県の 1.5 次避難所(スポーツセンター、産業展示館)には 124 人、2 次避難所(旅館・ホテル等)は 225 箇所、4427 人が避難していました。今後は各避難所から自宅や仮設住宅への引越が増加してくる予定

です。一方、JRAT も 4 月には 1~2 隊に絞り込んで、石川県内の地域リハビリテーション組織へと引き継がれてゆく予定です。

能登半島地震は発災から 2 か月半となり、少しずつライフラインも復旧し自宅や仮設住宅へ戻る方が出てきています。しかし、介護保険サービス提供事業者の激減など、家に帰ったもののそれは以前と同じ生活ではなく、発災前よりも大変な状況の中で生活をする要介護者がたくさん発生することが懸念されています。まだまだ課題は山積みですが、引き続き皆様には関心をもっていたいただければと思います。そして能登半島震災から学んだことを 1 つでも自分と身の回りの人のために反映して「明日は我が身」の視点で防災などに取り組んで欲しいと願っています。文末ながら PT 協会が進める「令和 6 年能登半島地震」に対する募金活動にご協力いただいたみなさまありがとうございました。

●3/5 報告

2 月末までに全国から 558 チーム(1936 名)が能登半島の被災地で災害リハビリ支援を展開し、それを支える石川本部と東京本部の要員(ロジ)数は 1277 名と 461 名にのぼり、総勢 3674 名が 1 - 2 月に現地支援に関わっています。現在兵庫 JRAT 災害リハビリ支援チームはチーム D が 2 月末に無事帰着し、4 日からチーム E(上下竜平 PT、下野雅彦 PT、中道哲朗 PT、今村相雄 PT)が奥能登である珠洲市で活動しています。また、石川本部では安尾 PT が県庁本部では前田 PT が、1.5 次避難所では藤本 CM が従事しています。

さらに 3 月 10 日からはチーム F が現地入りし、チーム G(戸田光紀 MD、大西伸悟 PT、森田捷平 PT、伊藤翼 PT、田川和人 PT)が 3/26-30 に現地入りする予定となっています。

被災地では徐々に仮設住宅が建ち始め、1 次・1.5 次・2 次避難所から地域へ戻る被災者もこれから徐々に多くなることが見込まれていますが、病院や介護福祉サービスが減少していることもあり、課題は山積んでいます。

多くの支援者たちが 3 月からは PUSH 型サービスから PULL 型サービスへと切り替えてゆく時期にさしかかっており、JRAT も月内に東京本部を石川本部に統合して、4 月からは石川県内の地域リハビリテーション組織に引継いでゆくことになっています。しかし、現地のマンパワーも決して十分ではなく、何をどこまで行うのかこちらも多く課題があります。

会員のみなさまにおかれましては、引き続き能登半島震災に対して正しい情報に注目していただきながら、災害リハビリ支援者を暖かく見守っていただければ幸いです。再度のお知らせですが、PT 協会が進める「令和 6 年能登半島地震」に対する募金活動は 3/10 までとなっていますので、こちらもご検討ください。

●2/28 報告

今月末までに兵庫 JRAT 災害リハビリ支援チームはチーム A・B・C・D と 4 チーム 18 名(医師 1、CM 1、PT9、OT4、ST3 名)が現地で活動してきました。本日現在は石川総合スポーツセンターではチーム D(岡前暁生 PT、田中義

之 ST、松前めぐみ OT、笠原舞結 ST)が活動中です。3月にはチーム E(上下竜平 PT、下野雅彦 PT、中道哲朗 PT、今村相雄 PT)が 3/4-8 に、チーム F(堀家章宏 ST、岩田祐美 OT、深津陽子 PT、濱崎和樹 PT)が 3/10-14 現地入りする予定で、現在チーム G も派遣も検討中です。さらに石川 JRAT の本部要員として 3/2-5 まで安尾仁志・前田創 PT が任務する予定です。

しかし、奥能登地方は地理的な弱点もあり、過去数十年で最も支援が届きにくく復興が遅れています。ライフライン復旧も特に水道は十分ではなく、2/25 時点で輪島市 2074 名をはじめ珠洲市 1276 名、七尾市 825 名、能登町 720 名、穴水町 654 名、志賀町 560 名とその他地域を含め 6237 名が一次避難所で生活しています。県が作ったスポーツセンターなどの 1.5 次避難所には 135 名が、提携した旅館ホテルなどの 2 次避難所には 5039 名が避難生活を続けています。

引き続き、会員の皆様には能登半島震災に対して正しい情報に注目していただきながら、災害リハビリ支援者を暖かく見守っていただければ幸いです。また重ねてのお願いになりますが、PT 協会が進める「令和 6 年能登半島地震」に対する募金活動は 3/10 までとなっていますので、こちらをご検討ください。

●2/15 報告

本日時点で兵庫 JRAT 災害リハビリ支援チーム C(福島京子 OT をリーダーとして、喜田直樹 PT、川上のぞみ PT、岩田健太郎 PT)が現地で活動しています。二日目は能登町の避難所訪問を行い、初日と本日・明日は金沢市内のいしかわ総合スポーツセンター(1.5 次避難所)で活動しています。他にも DMAT 隊員として現地入りしている PT もいます。

続いて、2/26~29 は岡前暁生 PT がリーダーを担当するチーム D が現地入りし、3/5~8 は上下竜平 PT がリーダーを担当し、下野雅彦 PT、中道哲朗 PT、今村相雄 PT という全員 PT というチーム E の派遣が決まっています。

これまでに 3 チーム 14 名が兵庫 JRAT として現地で支援活動を行い、全員が無事に帰任されました。ここで任務が終了した直後の支援者に関して、皆様にお知らせしたいことがあります。被災地から帰任した支援者は、連日続いた極度の緊張感から解放され、通常業務復帰後も数日間は物事全般に集中し難い状態になることが知られています。そのため周囲からの労いと見守っていただくことが、完全復帰への近道となりますので、重ねてご理解とご協力をお願いします。

●2/8 報告 (災害リハビリ支援チーム派遣予定)

兵庫 JRAT 災害リハビリ支援チームはチーム B も無事に任務を終えて帰任されました。次のチーム C は福島京子 OT をリーダーとして、喜田直樹 PT、川上のぞみ PT、岩田健太郎 PT の 4 名で 2/13-16 の任務予定があり、さらにチーム D は岡前暁生 PT をリーダーとして、田中義之 ST、松前めぐみ OT、笠原舞結 ST の 4 名体制で 2/26-29 の任務予定が立っています。さらに兵庫 JRAT 事

務局ではチームEとチームFの調整に入っており、熊本地震では2チームの派遣でしたが、能登半島地震ではすでにそれを3倍にもなる6チーム以上を派遣する予定となっています。

しかし、現時点でも十分とはいえず、長期的な支援計画が望まれ進んでいません。兵庫 JRAT では災害支援チームの現地活動員を引き続き募集しています。皆様も是非ご検討ください。

- 2/6 報告 追加募集！求ム 災害リハビリ支援チーム隊員募集
新着情報をご覧ください。

- 2/1 (災害リハビリ支援チーム派遣予定)

兵庫 JRAT からは既に1チームが任務を終え、現在1チームが七尾から志賀町で活動しています。全国的に2月中旬以降の支援チーム減少の解決が過大となり、兵庫 JRAT では、チームCが2/13-16、チームDが2/19-22で調整中となっています。

発災から1ヵ月が経過し、現地への関心が低下しやすい時期にきていると思います。今は災害の急性期から回復期が見えてきたような時期になると思います。兵庫県理学療法士会は皆様の想いを集めて能登半島地震の被災者の皆様のリハビリテーションを応援します。何かアイデアがありましたら、近くのPT士会役員へ災害対策部宛の伝言をお願いします。

- 1/30 (災害リハビリ支援チームB活動開始の報告)

本日から能登半島地震兵庫 JRAT 災害リハビリ支援チームの第二陣であるチームBが活動を始めます。リーダー藤本ケアマネージャー、黒部PT、前田PT、田中PT、保井STの5名体制です。

任務地は先日お伝えした石川総合スポーツセンターではなく、七尾市のJRAT本部に入り、そこから北部の被災地域において災害リハビリテーションサービスを提供する予定です。

支援チームをはじめ、被災地で活動する保健医療福祉関係者の安全と任務遂行を一緒に祈ってください。

引き続き支援者の登録、そしてみなさまからの注目と支援をよろしくお願いします。

- 1/27 (災害リハビリ支援チームAの帰還報告)

昨夜兵庫 JRAT 災害リハビリ支援チームAが被災地での任務を終え無事に帰着したことを報告します。

チームAはリーダー勝谷MD、中谷PT、東恭弘、溝部OT、福嶋OTの5人体制で、22日(月)に金沢入りし、23・24・25日は過酷な環境の珠洲市で他の支援チームとも協業しながら任務を遂行し、26日はいしかわ総合スポーツセンター〔1.5次避難所〕での活動を終えて帰着されました。

支援メンバーの皆さんは本当にお疲れ様でした。そして支援者を支えたみなさんも同じくお疲れさまでした、そしてありがとうございました。

第二陣のチーム B はリーダー藤本進ケアマネージャー、黒部正孝 PT、前田創 PT 兵庫 JRAT 事務局、田中慧 PT、ST 保井菜緑の 5 名体制です。任期は 31 日(水)から 2/1・2・3 といしかわ総合スポーツセンターにおいて災害リハビリテーションサービスを提供する予定です。

現在、兵庫 JRAT には 19 名の会員理学療法士から申し込みがあり、支援者として 5 名の支援日程が決まり実行しています。

能登半島地震の支援は長期化する見込みです。引き続き支援者の登録そしてみなさまからの支援をよろしくお願いします。

●1/19 (災害リハビリ支援チーム A の活動予定)

1/22(月)金沢市前泊

1/23(火)JRAT 石川本部(県立リハビリリションセンター) →七尾市→穴水市泊

1/24(水)穴水市・能登町→穴水市泊

1/25(木)穴水市・能登町→金沢市泊

1/26(金)石川総合スポーツセンター(1.5 次避難所)→夜帰宅

能登町は珠洲・輪島に次ぐ被災地域で高齢化率 51.4%で死者 7 人の地域です。宿泊地である穴水もまだライフラインが整っておらず、床に雑魚寝状態の中で心身ともに酷使することが想定されます。是非、みなさんで応援とエールをお願いします。

●1/18 (災害リハビリ支援チーム B 決定)

兵庫 JRAT の能登半島震災へのリハビリ支援チームの第二班が決まり JRAT 中央対策本部へ登録申請しました。1/31~2/3 の四日間です。

メンバーは CM 藤本進、PT 黒部正孝、PT 前田創、PT 田中慧、ST 保井菜緑の 5 名体制です。

引き続き、皆さんで被災地と支援者を応援して、無事を祈ってください。リハビリテーションの力が被災地の安寧に役立つ事を確信しています。よろしくお願いします。

●1/17 (災害リハビリ支援チーム A 決定)

兵庫 JRAT の能登半島震災へのリハビリ支援チームの第一班が決まりました。1/23~26 の四日間です。メンバーは MD 勝谷将史、PT 中谷知生、PT 東恭弘、OT 溝部二十四、OT 福嶋さゆりの 5 名体制です。

是非、皆さんでの応援し、無事を祈ってください。リハビリテーションの力が被災地の安寧に役立つ事を確信しています。

●1/14 （災害リハビリ参加者への災害リハビリ支援者登録の案内を送信）

平素より兵庫県理学療法士会の活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。兵庫県理学療法士会災害対策部より過去に兵庫県理学療法士会災害対策部研修会に参加（申し込みも含む）頂いた皆様にお願いがございます。

この度の石川県能登半島地震におきましては、被災状況が少しずつ明らかになり、刻々と被災地の状況が変化している事はマスメディアなどで既にご存じかと思えます。石川 JRAT が支援活動を始めておりますが、被害状況の全容が未だ不明確で、現地での人的支援が不足していることから兵庫 JRAT から支援活動ができる人材を派遣する事が決定致しました。そこで、能登半島地震支援チームへの登録（立候補）についてのご案内をさせていただきます。

添付致します情報をご確認いただき、ぜひ皆様のお力をお貸しいただければと思えます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

「① はじめにお読みください」にも書いていますが、災害リハ研修未経験でも大丈夫です。事前学習も現地でも兵庫 JRAT がサポートします。

是非みなさんの力で、志願者を支援し、志願者のサポートをしてください。

皆さんの大きな支援を被災地へ届けたいと思えます。

兵庫県理学療法士会災害対策部

●1/9 （全国の地域 JRAT へ支援要請）

・1/7 付けで JRAT 中央対策本部から全国の地域 JRAT へ派遣要請が出されました。兵庫 JRAT でも派遣チームを募集する方向で調整がはじまりました。今後の情報にご注目ください。

●1/5 （兵庫 JRAT からの情報提供）

・石川 JRAT は 1/5 明日の午前、金沢医科大学病院リハビリセンター内に調整本部を兼ねた対策本部を設置する予定。

・新潟は「保健医療福祉調整本部（DPAT, JMAT, JRAT,等の団体招集）」の立ち上げはしないようです。

・福井は津波警戒解除後の避難所の開設はありませんので JRAT の出勤はないものと思われます。

・富山は確認中の市があり、明日にははっきりするのではないかと思われます。

以上、ご報告します。